

二〇二二年五月五日

こどもの日初孫宿す娘と二人
和太鼓を打つ万緑のふるへとぞ
聖五月ひとつばたごの花真白
トネルの出口を覆ふ若葉影
ホスピスの庭に大樹の桐の花

二〇二二年五月四日

教会の花壇華やぐ聖五月
蔦若葉城堡のぼりはじめけり
春落葉払えば小さきマリア像
長汀の鳴き砂踏み春惜しむ
手水鉢水満々と苔の花
薫風や大草原を波打たせ
飛び跳ねて打つ和太鼓や夏来る
図書館の窓明るうす蔦若葉
つばめ来る泥田を掠め軒掠め

二〇二二年五月三日

引綱の伸びて宮出の山車動く
十字切る空の青さや初燕
老鶯の声一喝す禅の庭
鶯の正調雨に途切れがち
田水張る湖水を望む大平野

こすもす

はく子

菜々

宏虎

よし女

つくし

はく子

よし子

よし女

ぼんこ

さつき

満天

せいじ

とろうち

なつき

よし子

菜々

ともえ

せいじ

二〇二二年五月二日

愛想なき古書肆のあるじ春の昼
工事場のクレーン塔にも鯉のぼり
一輪車少女がつかむ春の風
末広の水脈を重ねて春の鴨
煌めける湖水はるかに麦の道
マリア像祈り佇む新樹影
藤の花東司の窓を隠しけり

二〇二二年五月一日

葱坊主はじけて虻を集めけり
藤棚の下に手話する二人かな

二〇二二年四月三〇日

百の傘牡丹にかざす法の庭
潮騒を乗せ来る浜の風五月

二〇二二年四月二十九日

子遍路の背よりも高き杖を持ち
吊り革を支えとしたり花疲れ
とめどなき落花浴びつつ畝を切る
飛行雲十字を切りし春の空
坂がかかるやぐら門へと残る花

雅流

はく子

有香

とろうち

せいじ

宏虎

よし子

あさこ

満天

ひかり

三刀

さつき

よし子

とろうち

こすもす

雅流

雅流

毎日句会みのる選・二〇二二年五月七日